

峰山学園保幼小中一貫教育だより

【 令和6年6月号 】

発行：峰山学園事務局

連絡先：0772-62-0359

FAX：0772-62-7987



峰山学園教育目標：ふるさとを愛し、多様な人とつながりながら学び、探究し続ける子どもの育成

峰山学園目指す子ども像：◇主体的に学び続ける子ども ◇人を思いやり仲間と共に高め合える子ども

◇粘り強く挑戦し続ける子ども

1学期も後半に突入！教育活動も充実期を迎えています！

令和6年度の教育がスタートして早2ヶ月が過ぎ、1学期も後半を迎えました。この間、各園小中学校では修学旅行、運動会、異年齢の取組等が展開されました。新入生、園児にとっては新しい環境に慣れるまでの不安もあったと思いますが、園から小、小から中へと丁寧な引継ぎのもとに、子ども達は元氣いっぱい学校生活を楽しんでいます。こども園においても、年長児が中心となりながら園生活をリードし生き生きと過ごす姿が見受けられます。良いスタートが各園小中学校で切れています。さらなる1学期の充実に向け、後半も歩みを進めていきます。

峰山小学校



5月24日(金)に「峰小みんなのスポーツフェスティバル」が行われました。それぞれの学年が企画した内容を担当学年が進行し、全校が楽しみました。

いさなご小学校



5月24日(金)に「運動会」が行われました。徒競走では応援席からの熱い声援に応えるかのように1年生もゴールを目指し、懸命に走りました。

しんざん小学校



5月25日(土)に「運動会」が4チームに分かれて行われました。児童会種目では1～6年生が心を合わせてボールを運びました。

長岡小学校



5月14日(火)に5年生が毎年お借りしている学校下の田で、地域の方にお世話になり田植えを行いました。泥の感触にも次第に慣れ、上手に植えることができました。

峰山こども園



5月29日(水)に「防犯教室」が京丹後警察にお世話になり行われました。「いかのおすし」の意味を寸劇を交えて理解しました。フラッグ隊と一緒にダンスも踊りました。

ゆうかり子ども園



5月15日(水)に金刀比羅神社に遠足に行きました。5歳児は4歳児とペアで行動し、リードしてくれました。池の亀が子どもたちを迎えていました。

峰山中学校



5月18・19日を中心に「京丹後市春季体育大会」が各会場で行われました。1年生から大会に出場する部もありました。惜しくも敗れてしまった部もありましたが、各部ともに接戦を繰り広げ好成績を収めました。ベンチからの声援も強い後押しになりました。

6年生が「授業体験」で峰中合唱祭の練習を参観しました

6月3日（月）に峰山学園の6年生が峰山中学校に訪れ、7日（金）に行われる合唱祭に向けての練習の様子を参観しました。峰山学園としては合唱祭の練習の様子を参観するのは初めての取組となります。生徒会のメンバーが事前に収録した『ビデオレター』が各校に届けられ、当日の挨拶でも「峰中のスローガン『繋』のひとつとして、今日をきっかけとして峰山学園の仲間である皆さんと繋がりたい」と小学生を大歓迎。最初に3年生の全員合唱を参観し、その後1・2年生も参加しての全校合唱を聴きました。取組が始まってからわずか1週間ほどの練習量でしたが、6年児童はその歌声に感動を覚えています。各クラスに分かれての放課後の練習風景も校舎を巡りながら参観しました。入学してまだ2ヶ月しか経っていない1年生がしっかりと取り組んでいる姿も印象的でした。「中学校の合唱祭のイメージを持つことが大事と思って今日を楽しみにしていた。そのイメージが持てた。」「来年、自分たちも合唱祭に取り組むのが楽しみです。」と代表児童が感想を発表してくれました。今後も学園として子ども同士が繋がっていく取組を大切にしていきます。

生徒会代表の歓迎の言葉



3年生の学年合唱を参観する6年生



1～3年生の全校合唱に聴き入る6年生

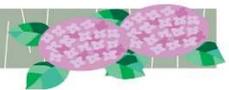


参観しての感想を各校代表児童が発表

パート練習の様子を参観。知っている先輩に思わず手を振る場面も見られました。



ボランティア活動に小・中学生が参加



6月1日（土）に、京丹後市社会福祉協議会主催の「やってみよう ボランティア」が峰山中学校被服室で行われました。昨年度までは峰山中学校の生徒を対象にボランティア活動への参加を呼び掛けていましたが、学校運営協議会の中で「小学生にも体験できる機会があれば良いと思う。」とのご意見をいただき、今年度は小学生にも参加を呼びかけることにしました。当日は中学生6名、小学生6名の参加があり、地域の方や保護者の方も一緒にボランティア活動を行いました。峰山町の施設や地域の場で使用する「脳トレマッチ棒ゲーム」のマッチ棒作り、「メッセージカード」作りのお手伝いをしました。お互いに教え合ったり、子どもならではの発想の豊かさに感心される場面があったりと、ほのぼのとした温かい時間が流れる中で作業が進んでいきました。参加した児童や生徒からは、「自分たちが作ったものが喜んでもらえ、役に立つと嬉しい。」「最初は慣れなくて難しい所もあったけど、上手にできるようになった。」等の感想が聞かれました。自分の特技や意欲が生かされ「誰かの役にたつ」という経験を踏むことはとても大切なことです。今後も、“できる所で、できることを”を合言葉に、大人も子どももボランティア精神があふれ、お互いが助け合える、思いやりのある町づくりを進めていければと思います。

